

〔前文〕  
福音信仰に立つ私たちが、福音宣教の推進と諸教会の相互理解、協力を願う。これまで三回、日本福音同盟(JEA)の主催による日本伝道会議を開催してきた。九十七年、京都の第一回伝道会議において、私たちは福音信仰を基礎とした相互理解と伝道協力の必要性を確認し、日本にその理念を実現する群として、自らの存在を明らかにしました。一九八二年、再び京都で開催された第二回伝道会議では、伝道は教会の主体的な業であるとの認識を深め、日本特有の伝道課題を取り上げ、その対応や方策を探りました。一九九一年、那須塩原における第三回伝道会議で、私たちは地方と世界を同時に視野に収め、日本・アジア・世界という広がりの中で伝道に取り組むという姿勢を自覚し、推進しようと決意しました。

## 第4回日本伝道会議・沖縄宣言

「21世紀の日本を担う教会の伝道-和解の福音を共に生きる-」

福音を共に生きるために、この会議とそこに至る積み重ねの中で私たちに与えられた認識、悔い改め、願い、祈り、決意を以下のように要約し、宣言として公にいたします。

### 第一章 和解の福音を共に確かめる

1. 神との和解  
人間は、万物の創造主である唯一の神によって造られ、「良い」とされたにもかかわらず、罪のために神との関係を破り、神に敵対するものとなってしまいました。罪人となった人間は、義なる神の前にあって、自ら罪を償い、神との関係を回復することができない状態にあります。しかし、神はその大いなる愛のゆえに、主イエス・キリストをこの世に遣わされ、十字架の上で、死からの復活によって、罪人を罪のなわめから解放し、神との正しい関係を回復する道を開かれました。これはキリストを信じる信仰によってのみ与えられる神との和解であり、霊感された神のこゝろである聖書に啓示されている主題であり、福音の核心です。

この「和解の福音」は、罪ある人間が救いを得るための唯一の道です。それは父・子・御霊なる三位一体の神の一方的な愛と恵みによるもので、他に類のないものです。私たちキリスト者は、神との正しい関係に入れられた者として、神の栄光のために世に遣わされ、世に向かって神との和解の福音を宣べ伝え、世にあつてこの福音に生きる者となります。

2. 人との和解  
「人と人との和解」は、当事者が互いに譲りあって争いをやめ、互いを愛するが、単に争いをやめるにとどまり、相互の関係は断たれてしまふのが現実です。神の愛によって罪を赦されたキリスト者は、御霊

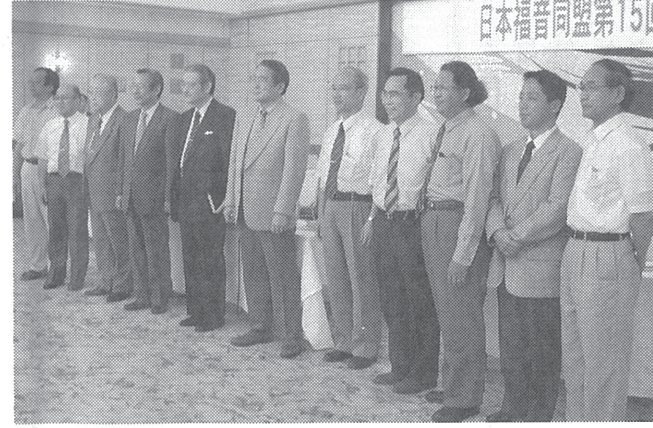
の助けにより、キリストの愛にならひ、自らも赦す者とされました。そして、一方的な愛によって隣人との悪い関係を改善するよう、また、さらに積極的に隣人との良い関係を築き出さなければなりません。

この世における、罪のもたらす人と人との関係は、まことに憂うべきですが、キリスト者が、神の愛をもって平和をつくり出す者として生きる時、家庭において、教会において、地域において、社会において、国家において、全世界において、さまざまな人と人との関係が改められ、神のこゝろに一つに結ばれた人間相互の交わりが実現します。

3. 万物の和解  
人間は、万物の創造主である神によって地を治める神の代理人として創造され、神からの管理を委ねられています。しかし、神から離れた人間は、罪のために、神の意思に反し、神のために治めなければならぬ地をほごのままに用い、環境破壊、資源枯渇、地球温暖化などの問題を引き起こしました。二十世紀末の今や「地のゆめき」は、全地球的な規模で拡がり、万物は「神の子らの現れ」による救いを待ち望んでいます。

神との関係を回復されたキリスト者は、本来の神の代理人として、今こそ、地の解放のために、政治、経済、教育、科学、その他あらゆる分野において、真の貢献をしていかなければなりません。

私たちはこの世において神の賜物を十分に發揮し、与えられた使命の遂行に励み、最終的に栄光のキリストの来臨により、全地にキリストの支配が及ぶまで、行きたる神の国が到来することを待ち望みます。



第15回総会で決まった新理事会のメンバー。左から5人目が篤田公義・新理事長(6月30日)

## 「世界宣教青年会議」開催を決定

### 理事の任期限度を延長

### 長期計画遂行の体制へ

日本福音同盟(JEA)は六月三十日、那覇市内で第十五回総会を開き、青年クリスチャンが世界宣教のビジョンを分かち合うことを目的に「世界宣教青年会議」(仮称)を開催することを決めた。検討されてきた規約の改定では、理事長及び理事任期の限度を延長し、より長期的なビジョンに立った施策を執行しやすい体制に移行。また、これまで理事の互選で決めていた理事長人事を全会員代表議員の投票による直接選挙に変更した。吉持章氏(日本同盟基督教団)は二期二年の任期を終えて今総会、理事長を退任し、新方式による初の直選で新理事長に篤田公義氏(イムヌエル綜合伝道団)が選出された。

初の新理事長に篤田公義氏

「世界宣教青年会議」は、JEA世界宣教委員会(三ツ橋信昌委員長)が九八年の第二回世界宣教日本会議、九九年の世界宣教コンサレーションでの懇談などを経て、多くの青年クリスチャンが一堂に会し、世界宣教のビジョンを共に分かち合い、主に自らをささげる時と場を持つことが必要だとして立案。これをJEA全体の取り組みとして受け止め、理事会が提案し可決された。

原案では二〇〇二年十二月末ごろに三泊三日、東京

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

過去三回の会議を踏まえ、ここに私たちは「一層の連帯と協力の美を結ぶ」とを祈り期待しつつ、JEAの枠を超えて実行委員会を組織して、第四回日本伝道会議を開催しました。世紀をまたぐ特別な時を意識し、二十世紀と二十一世紀を展望しようとする試みが、この会議の貢献となり、収穫となつたと信じます。

今回の会議が沖縄で開催されたことに神の摂理を覚えたい。私たちは沖縄に集うことにより、沖縄が日本全土との関わりにおいて特別な痛みをもち、このことを思い、キリスト者として、痛みを共有する聖書的・福音的あり方を模索しました。

会議のテーマは「二十一世紀の日本を担う教会の伝道-和解の福音を共に生きる-」です。「和解の福音」という表現は、聖書の教える救いの本質を適切に表していることを私たちは確認しました。特に宗教が多

な関係においても理解されなければなりません。こうして私たちは和解のとりなし手として「祈り」・「和解の福音を「宣べ伝え」、和解の福音を「生きた」使命を神から受けているという深い自覚を導かれました。

来るべき二十一世紀において私たち日本の教会が和解の福音を宣べ伝え、その

## ろんせつ

＜論説＞



論説委員 有賀 喜

### 神の転換

「二十一世紀の日本を担う教会-和解の福音を共に生きる-」を主題に、第四回日本伝道会議が、大きな祝福の中に沖縄で開かれた。主の年二〇〇〇年、二十一世紀最後の年という世紀の節目に「沖縄」という島の遺産を歴史に負った地で、その傷とゆめをの声を聞き、同時に、他府県の三倍のクリスチャン人口を持つ、キリストのからだとしてその美しさを一致と協力の美をあげて、真実に触れる時であった。

この日本の転換(シフト)は、「神の時を交え」(ダニエル二・21)のディバイド・シフトである。人間

## 21世紀の日本を担うために

「神の時を交え」(ダニエル二・21)のディバイド・シフトである。人間は無力、神の全能から来る三位体的に存在する時代において、キリストにある神との道であるという信仰を私たちが堅持しなければならぬ。また、また分断と争いに満ちた現代社会において、環境破壊の危機にさらされている二十一世紀において、「神と人」との和解は、「人と人」「万物」という多様な

の助けにより、キリストの愛にならひ、自らも赦す者とされました。そして、一方的な愛によって隣人との悪い関係を改善するよう、また、さらに積極的に隣人との良い関係を築き出さなければなりません。

この世における、罪のもたらす人と人との関係は、まことに憂うべきですが、キリスト者が、神の愛をもって平和をつくり出す者として生きる時、家庭において、教会において、地域において、社会において、国家において、全世界において、さまざまな人と人との関係が改められ、神のこゝろに一つに結ばれた人間相互の交わりが実現します。

人間は、万物の創造主である神によって地を治める神の代理人として創造され、神からの管理を委ねられています。しかし、神から離れた人間は、罪のために、神の意思に反し、神のために治めなければならぬ地をほごのままに用い、環境破壊、資源枯渇、地球温暖化などの問題を引き起こしました。二十世紀末の今や「地のゆめき」は、全地球的な規模で拡がり、万物は「神の子らの現れ」による救いを待ち望んでいます。

神との関係を回復されたキリスト者は、本来の神の代理人として、今こそ、地の解放のために、政治、経済、教育、科学、その他あらゆる分野において、真の貢献をしていかなければなりません。

私たちはこの世において神の賜物を十分に發揮し、与えられた使命の遂行に励み、最終的に栄光のキリストの来臨により、全地にキリストの支配が及ぶまで、行きたる神の国が到来することを待ち望みます。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「世界宣教青年会議」は、JEA世界宣教委員会(三ツ橋信昌委員長)が九八年の第二回世界宣教日本会議、九九年の世界宣教コンサレーションでの懇談などを経て、多くの青年クリスチャンが一堂に会し、世界宣教のビジョンを共に分かち合い、主に自らをささげる時と場を持つことが必要だとして立案。これをJEA全体の取り組みとして受け止め、理事会が提案し可決された。

原案では二〇〇二年十二月末ごろに三泊三日、東京

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シド(聖戦)を叫ぶインドネシアの自由委員、約六千人から七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしい。福音同盟の稲垣博史総務部長が、四月から続けている「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る。

エルサレムで2000年運動とローザンヌ世界宣

「聖書二〇〇〇年」をテーマに、七月五日、超教派の「マルク」に和解を願う会や市民団体と共にインドネシア大使館を通じて同国政府関係機関に対して、一刻も早く法の下の厳正な措置をとり、負傷者や避難民に適切な対応をするよう、緊急の要請をした。

エルサレムで2000年運動とローザンヌ世界宣

「聖書二〇〇〇年」をテーマに、七月五日、超教派の「マルク」に和解を願う会や市民団体と共にインドネシア大使館を通じて同国政府関係機関に対して、一刻も早く法の下の厳正な措置をとり、負傷者や避難民に適切な対応をするよう、緊急の要請をした。